

平成 27 年度資源・環境関連材料部会見学会報告  
「九州北部地域のセラミックス関連工場と近代化産業遺産を訪ねる」

今年度の資源・環境関連材料部会の見学会は、平成 27 年 11 月 9 日（月）、10 日（火）の 2 日間、福岡市、柳川市、大牟田市、佐賀県基山町の企業を訪問して行われた。参加者は渡村部会長を始め、16 名であった。

1 日目、一行は福岡空港国内線ターミナルに集合し、貸し切りバスで、最初の見学先である大塚精工株式会社本社工場を訪問した。2 班に分かれ、セラミックス製品や特殊部材が、マシニングセンターや研削盤などを駆使して加工される現場を見学した。同社は精密加工のプロ集団で、1 $\mu$ m 以下の精度が求められる仕事に、真摯に向き合う姿に感銘を受けた。

次に一行は、福岡県を南下し、佐賀県鳥栖市近郊の日本タングステン株式会社基山工場を訪問した。同工場は粉末冶金を基盤技術として、超硬合金やファインセラミックスなどの製品を製造している。同社の沿革や薄膜磁気ヘッド用基板、超硬ダイカッター、放射線防護用のタングステンシートなどの製品について予め説明を受け、工場内で大型焼結炉などの製造設備、品質管理の工程を見学した。同社は多品種少量生産に徹しており、数千品種の製品を生産しているとのことであった。

その後一行は福岡県をさらに南下し、柳川市のかんぼの宿に宿泊した。懇親会により親睦を深め、大いに盛り上がった。

2 日目は 8 時 30 分に宿泊先を出発し、9 時過ぎに大牟田市エコタウンの地域活性化センターを訪問した。ここでは大牟田市における石炭産業を基盤とする発展の歴史や、全国 5 番目のエコタウンとして整備している、再生可能エネルギー関連施設など説明頂いた後、屋上に上がり、1.7 万 kw の太陽光発電施設などを眺望した。

次に一行はエコタウンに隣接するデンカ株式会社（旧電気化学工業）大牟田工場へ移動した。ここでは、同工場の 1914 年以來の歴史や生産品目について説明を受けたのち、車上からカーバイドや石灰窒素などの工場を見学しつつ移動し、熔融シリカ、ナノフィラー、蛍光体などの工場内を見学し説明を受けた。同工場は創業以來の無機化学工業と最先端のファインセラミックスが共存する不思議な空間であるとの印象を受けた。

工場見学のあと一行は、「明治日本の産業革命遺産」に登録間もない、わが国初の鋼鉄製槽をもつ宮原坑跡を車上にて見学した。昼食を挟んで、同じく世界遺産である三池港を訪ねた。同港には、有明海の浅瀬を克服するため 1.8km もの航路の奥に内港とドックがあり、ドックの手前には閘門という仕切りがある。三池港は今も現役であり、船が入港する様子を見学することができた。

見学の最後に石炭産業科学館を訪ね、大牟田市における石炭産業の移り変わりを学んだ。その後、一行はバスで高速道を北上し、福岡空港で午後 4 時 30 分頃に解散した。

2 日間の見学会は盛りだくさんの内容で、一部にスケジュールの変更を余儀なくされたが、無機化学工業、セラミックスの歴史を逆にたどる旅となった。

最後に、本部会見学会は、見学先の企業及び自治体関係者の方々の親身なご協力により実現しました。この場を借りてお礼を申し上げます。



大塚精工株式会社本社工場



日本タングステン株式会社基山工場



大牟田エコタウン地域活性化センター



デンカ株式会社大牟田工場



三池港閘門を背景に



石炭産業科学館